

表14 過程評価の回答者の背景

	度数	最小値	最大値	平均値	SD
経験年数	193	0	30	10.2	8
当該病棟での経験年数	193	0	26	4.3	4.1
所要時間	193	20	300	81.6	40.9

表15 過程結果の得点分布

	度数	平均値	SD	最小値	最大値	尖度	歪度	度数分布				
								0	1	2	3	無回
患者への接近												
P111	193	2.7	0.6	0	3	5.1	-2.2	2	6	38	143	4
P112	193	2.5	0.8	0	3	3.2	-1.9	10	5	47	121	10
P113	193	2.6	0.6	0	3	3.6	-1.7	2	4	54	130	3
P121	193	3.0	0.3	0	3	87.7	-8.7	1	0	4	173	15
P122	193	3.0	0.3	0	3	75.6	-8.0	1	0	5	171	16
P123	193	2.2	1.3	0	3	-0.9	-1.1	49	-	-	136	8
P131	193	2.2	0.5	1	3	-0.1	0.2	9	0	125	50	9
P132	193	1.6	1.2	0	3	-1.5	-0.2	58	14	67	47	7
P1TTL	193	18.8	4.1	3	24	1.2	-1.1					
内なる力を強める												
P211	193	2.7	0.9	0	3	6.0	-2.8	17	0	4	169	3
P212	193	2.3	1.0	0	3	0.8	-1.5	27	0	41	119	6
P213	193	2.2	0.8	0	3	0.1	-0.8	9	26	77	72	9
P221	193	2.5	0.8	0	3	1.1	-1.4	6	21	41	121	4
P222	193	2.0	1.4	0	3	-1.5	-0.7	61	-	9	120	3
P223	193	1.3	1.3	0	3	-1.7	0.2	78	19	28	53	15
P2TTL	193	12.6	4.0	0	18	-0.1	-0.7					
家族の絆を強める												
P3111	193	2.2	1.1	0	3	-0.1	-1.2	27	13	40	111	2
P3121	193	2.2	1.1	0	3	-0.2	-1.2	33	4	44	108	4
P3131	193	2.5	0.8	0	3	3.3	-1.9	10	5	49	126	3
P3212	193	2.3	0.9	0	3	0.7	-1.3	16	15	46	110	6
P3221	193	1.9	1.2	0	3	-1.5	-0.4	37	38	14	91	13
P3TTL	193	10.9	3.5	0	15	0.1	-0.9					
直接ケア												
P4111	193	1.9	1.4	0	3	-1.7	-0.6	68	-	0	122	3
P4121	193	1.6	1.5	0	3	-2.0	-0.1	87	-	0	97	9
P4212	193	2.3	0.6	0	3	3.2	-1.1	6	-	114	69	4
P4222	193	1.8	1.0	0	3	-1.7	0.3	4	100	12	69	8
P4232	193	2.7	0.7	0	3	7.0	-2.7	9	0	28	136	20

	度数	平均値	SD	最小値	最大値	尖度	歪度	度数分布				
								0	1	2	3	無回
P4252	193	2.6	0.7	0	3	5.2	-2.1	6	-	55	119	13
P4262	193	2.2	1.0	0	3	-0.9	-0.8	11	45	17	104	16
P4312	193	2.6	1.0	0	3	2.9	-2.2	22	-	-	145	26
P4321	193	2.5	0.8	0	3	1.5	-1.5	7	15	48	111	12
P4TTL	193	18.8	5.0	4	27	0.0	-0.6					
場をつくる												
P5111	193	1.8	1.3	0	3	-1.5	-0.5	53	-	39	75	26
P5121	193	2.0	1.3	0	3	-1.1	-0.8	48	-	38	94	13
P5212	193	2.3	0.6	0	3	3.5	-0.9	5	-	126	60	2
P5222	193	2.6	0.6	0	3	4.1	-1.7	4	-	69	111	9
P5TTL	193	8.1	2.6	2	12	-0.7	-0.5					
インシデントを防ぐ												
P6113	193	2.2	1.0	0	3	0.4	-1.3	23	-	53	78	39
P6122	193	2.9	0.5	1	3	9.6	-3.3	0	9	9	168	7
P6132	193	2.2	0.7	0	3	2.9	-1.3	9	0	103	58	23
P6211	193	2.6	0.6	0	3	4.1	-1.6	2	-	56	112	23
P6222	193	2.8	0.5	0	3	13.0	-3.1	2	-	30	160	1
P6311	193	2.2	0.4	1	3	0.6	0.7	0	5	148	40	0
P6321	193	2.0	1.1	0	3	-0.4	-0.9	35	-	79	69	10
P6331	193	2.8	0.6	0	3	9.0	-3.2	1	14	0	173	5
P6TTL	193	18.4	3.6	6	24	1.0	-1.0					
PTTL	193	87.6	16.7	31	115	0.0	-0.7					

表16 過程評価「無回答」の要因（自由記載内容より）

家族のことを問われたが、家族がいない人の返答に困った。
質問が選択患者にあってないときに答えに困り回答できないときがあった。
同じ患者の担当になることが少なかったため、前回との修正などを問われる質問は答えにくかった
対象の患者様に当てはまらない質問は回答に困りました
一人の患者を対象として答えていたが、当てはまらない項目も多くどう答えていいかわからない場合や、質問の意図する事が分りにくいこともあった。チェックだけにしたほうが答えやすいと思います。
今日の受け持ち患者で考えると回答できない所がいくつかあった。最近何ヶ月間の間で経験したことなども交えて回答できれば無回答が減らせたと思う。
具体的で分かりやすく回答しやすいものが多かったが、中には、質問の意図が分かりにくいものがあり、回答しにくい質問が数問あったように思います。
言葉や言い回しが難しい
質問の意味がわからないものが多く、それを理解するのに時間がかかったので、もう少しわかりやすい質問にしてほしいです。
質問の意味がわかりつらく回答しにくい項目があった。
一部わかりにくい設問がありました。
回答が2つの項目にわたることがあった。自分の受け持ちではなくたまたまその日に担当となってケアをした人に対して答えにくい項目がいくつもあった。
質問内容はわかるが、具体的にどの場面か想像しにくい

表17 過程評価結果の得点分布 (有効回答85件)

	度数	平均値	SD	最小値	最大値	尖度	歪度	度数分布			
								0	1	2	3
患者への接近											
P1112	85	2.8235	0.4412	1.0	3.0	6.1	-2.5	0	2	11	72
P1122	85	2.6941	0.673	0.0	3.0	7.5	-2.7	3	1	15	66
P1132	85	2.7647	0.4267	2.0	3.0	-0.4	-1.3	0	0	20	65
P1212	85	2.9647	0.1856	2.0	3.0	24.9	-5.1	0	0	3	82
P1222	85	2.9765	0.1525	2.0	3.0	39.9	-6.4	0	0	2	83
P1232	85	2.3294	1.2572	0.0	3.0	-0.2	-1.4	19	-	-	66
P1312	85	2.2824	0.5258	1.0	3.0	-0.5	0.2	0	3	55	27
P1322	85	1.7882	1.0812	0.0	3.0	-0.9	-0.6	18	6	37	24
P1TTL	85	20.624	2.5118	14.0	24.0	-0.1	-0.8				
内なる力を強める											
P2111	85	2.8471	0.6456	0.0	3.0	16.3	-4.2	4	0	1	80
P2122	85	2.4353	0.9442	0.0	3.0	2.1	-1.8	9	0	21	55
P2132	85	2.2706	0.762	0.0	3.0	1.0	-1.0	3	7	39	36
P2213	85	2.6353	0.6143	0.0	3.0	3.6	-1.8	1	3	22	59
P2223	85	2.2706	1.276	0.0	3.0	-0.5	-1.2	20	-	2	63
P2232	85	1.5529	1.2771	0.0	3.0	-1.7	-0.1	28	12	15	30
P2TTL	85	14.012	3.1717	6.0	18.0	-0.4	-0.7				
家族の絆を強める											
P3111	85	2.4235	0.8643	0.0	3.0	1.6	-1.5	5	6	22	52
P3121	85	2.5529	0.8093	0.0	3.0	3.7	-2.0	5	2	19	59
P3131	85	2.6588	0.6465	0.0	3.0	5.6	-2.2	2	2	19	62
P3212	85	2.4706	0.8672	0.0	3.0	2.4	-1.8	6	3	21	55
P3221	85	1.8824	1.248	0.0	3.0	-1.5	-0.4	18	17	7	43
P3TTL	85	11.988	2.8052	2.0	15.0	1.9	-1.3				
直接ケア											
P4111	85	2.1529	1.3584	0.0	3.0	-1.1	-1.0	24	-	0	61
P4121	85	1.7294	1.4912	0.0	3.0	-1.9	-0.3	36	-	0	49
P4212	85	2.3765	0.6168	0.0	3.0	3.1	-1.1	2	-	47	36
P4222	85	1.9294	1.0093	0.0	3.0	-1.8	0.0	2	40	5	38
P4232	85	2.8	0.5521	0.0	3.0	14.4	-3.5	2	0	11	72
P4252	85	2.7294	0.4469	2.0	3.0	-0.9	-1.1	0	-	23	62
P4262	85	2.3529	0.96	0.0	3.0	-0.3	-1.1	4	17	9	55
P4312	85	2.6824	0.9285	0.0	3.0	4.9	-2.6	9	-	-	76
P4321	85	2.5412	0.7328	0.0	3.0	2.3	-1.6	2	6	21	56
P4TTL	85	21.294	3.8229	9.0	27.0	0.3	-0.7				

	度数	平均値	SD	最小値	最大値	尖度	歪度	度数分布			
								0	1	2	3
場をつくる											
P5111	85	1.9529	1.2042	0.0	3.0	-1.0	-0.8	21	-	26	38
P5121	85	2.2588	1.125	0.0	3.0	0.1	-1.3	15	-	18	52
P5212	85	2.2118	0.6743	0.0	3.0	3.4	-1.2	4	-	55	26
P5222	85	2.6353	0.5531	0.0	3.0	4.2	-1.6	1	-	28	56
P5TTL	85	9.0588	2.1064	2.0	12.0	1.8	-1.3				
インシデントを防ぐ											
P6113	85	2.3412	0.9329	0.0	3.0	1.6	-1.5	9	0	29	47
P6122	85	2.8941	0.4089	1.0	3.0	15.4	-4.0	0	3	3	79
P6132	85	2.2941	0.6514	0.0	3.0	3.4	-1.2	3	0	51	31
P6211	85	2.6471	0.6115	0.0	3.0	6.3	-2.2	0	-	24	59
P6222	85	2.8588	0.3503	2.0	3.0	2.5	-2.1	2	-	12	73
P6311	85	2.2706	0.4469	2.0	3.0	-0.9	1.1	0	0	62	23
P6321	85	2.1529	0.9194	0.0	3.0	1.0	-1.3	10	-	42	33
P6331	85	2.8824	0.4734	1.0	3.0	12.9	-3.8	0	5	0	80
P6TTL	85	20.341	2.1961	15.0	24.0	-0.2	-0.7				
PTTL	85	97.318	11.157	62.0	115.0	0.4	-0.7				

図6 過程-6領域の得点分布

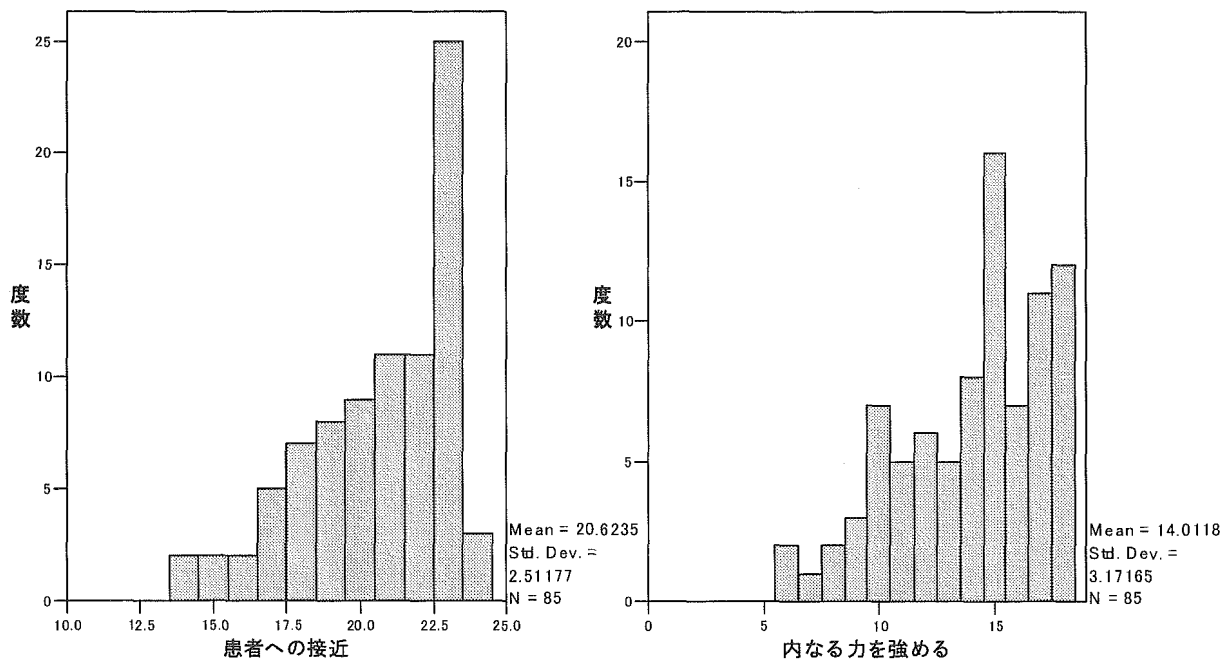


図6 過程一6領域の得点分布 (つづき)

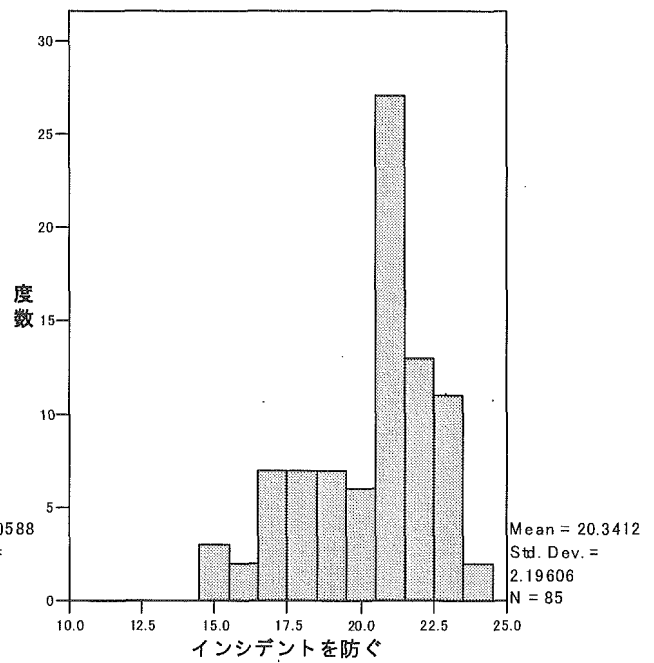
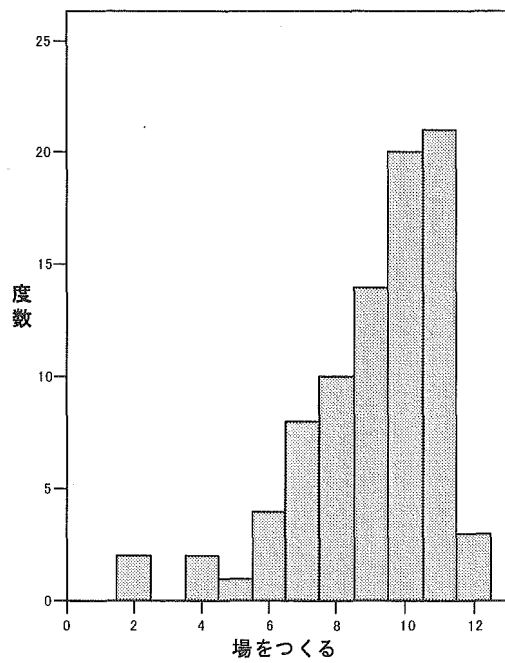
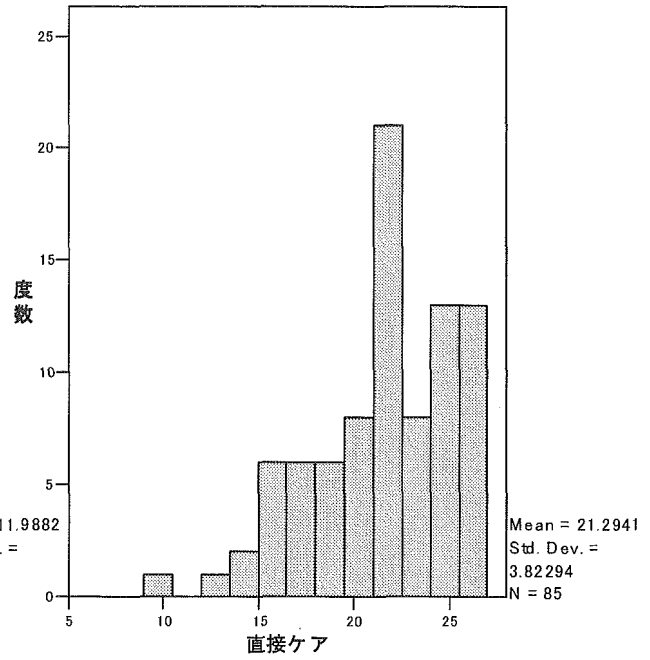
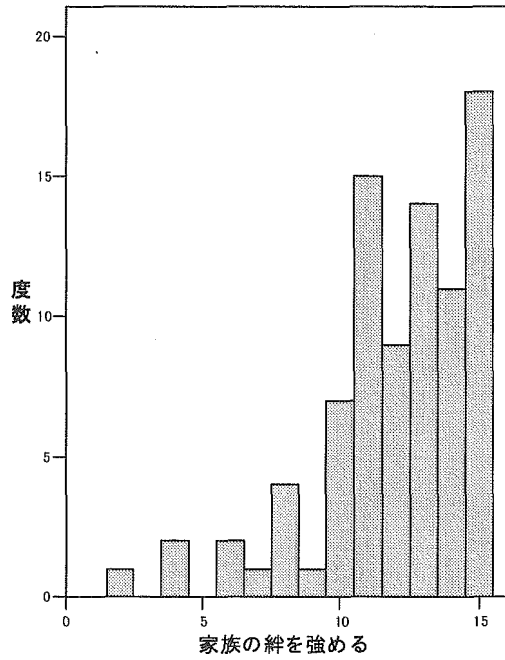
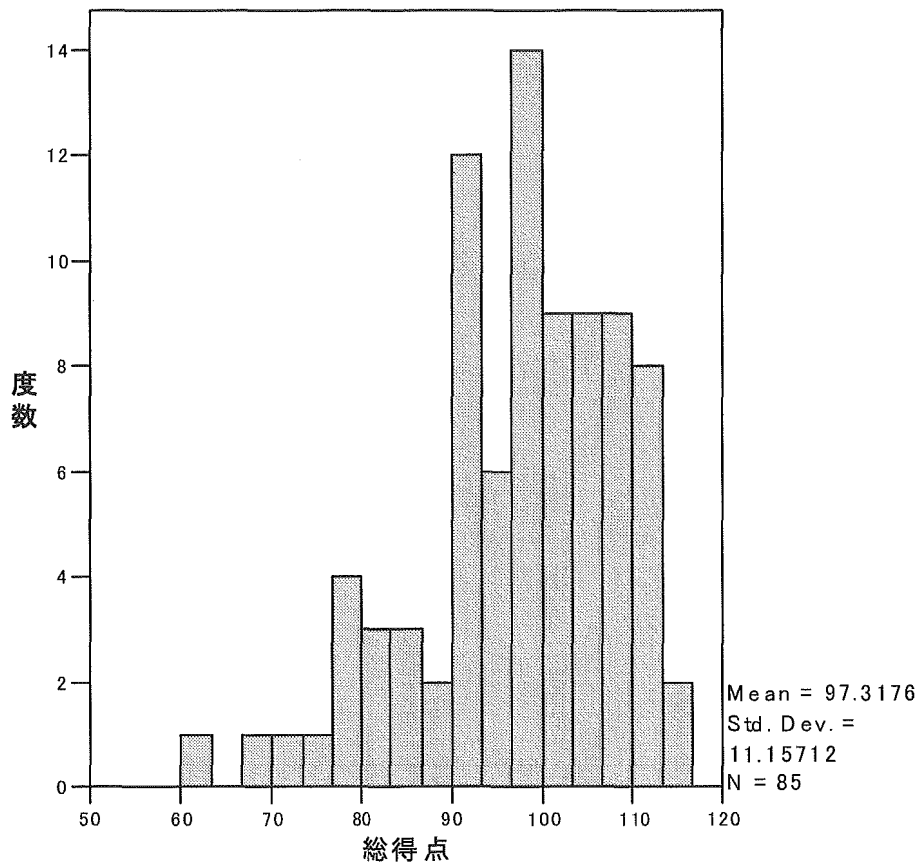


図7 過程評価結果の総得点の分布



3. 自己評価の整合性

過程評価は、看護ケアのプロセスを評価するものであり、看護師がどのような情報を持ち、それをどのように判断し、実際にはどのように行為しているかを評価するものである。これまでの研究結果においても自己評価の回答者は、理想に近いかたちで回答する傾向があり、回答の偏りを少なくするために、具体的な記述をもとめ、そのうえで自己評価を選択してもらう方法を用いた。記述項目は、自己評価全40項目中、25項目にもとめた。しかしながら、今回の調査の結果においても、自己評価と記載内容になお乖離があり、自己評価が高い傾向がみられた。乖離があった記載例は表18に示す。

この例では、記述内容に個別の看護ケア

についてその内容をもとめるものであるが、これらの記述内容では、個別ケアの内容を読み取ることができないが、自己評価では「個別的なケアの記載がある」を選択されていた。

感染に注意して、感染予防対策を実施している。
体動時の呼吸苦を考慮して保清ケアを実施している。
再骨折予防、呼吸状態の悪化。

表18 記載例：個別的なケアの記述がない

一方で、表19は、自己評価に「個別的なケアの記述がない」とされているが、記述内容では個別的なケアが記述されている。

表19 記載例：個別的なケアの記述がある

術後まもないため、創痛が優先し、まだ清潔行動に関心が向いていない。歯磨き、洗面、清拭、洗髪などの清潔行動に声をかけている。
転倒転落を考慮して、夜間の排尿付き添いを行っている。また、センサーマットも使用している麻薬の内服使用中のため、服薬確認を行っている
疼痛コントロールは必ず図れるようになることを伝え不安を取り除く。日常生活では鎮痛剤使用后、疼痛緩和できているときに入浴介助を行う。

自己評価は理想の項目を選択する傾向があるため、記述の部分のみで適切な評価ができる方法としてテキストマイニングを用いた記述データの分析による評価方法の開発を急ぐ必要がある。

4. 過程評価入力後のアンケート結果

過程評価入力後のアンケート結果を表20に示す。

患者の選定についてのわかりやすさ、入力のかた、画面上の質問の見やすさについて、「ふつう」から「よくわかった」とする回答者が7割以上であった。

質問の意味については、38.2%が「よくわからなかった」と回答しており、過程評価の無回答の多さに反映したと考えられた。

評価についての負担感は、「少し感じた」「とても感じた」が回答者の半数以上を占めていた。

評価を受けることの可能な間隔は、「1年間隔」が最も多く、次いで「6か月間隔」であった。

表20 過程評価入力後のアンケート結果

患者の選定		n (%)	評価を受けることの負担感		n (%)
よくわかった	19	(9.8)	感じなかった	15	(7.9)
まあまあわかった	54	(28.0)	あまり感じなかった	42	(22.0)
ふつう	69	(35.8)	ふつう	36	(18.8)
あまりわからなかった	44	(22.8)	少し感じた	80	(41.9)
わからなかった	3	(1.6)	とても感じた	18	(9.4)
無回答	2	(1.0)	計	191	(100.0)
計	191	(100.0)			
入力方法		n (%)	時間的な負担		n (%)
よくわかった	25	(13.1)	感じなかった		(0.0)
まあまあわかった	53	(27.7)	あまり感じなかった	15	(7.9)
ふつう	55	(28.8)	ふつう	17	(8.9)
あまりわからなかった	53	(27.7)	少し感じた	90	(47.1)
わからなかった	3	(1.6)	とても感じた	68	(35.6)
無回答	2	(1.0)	無回答	1	(0.5)
計	191	(100.0)	計	191	(100.0)
画面の質問項目の見やすさ		n (%)	精神的な負担		n (%)
よくわかった	34	(17.8)	感じなかった	19	(9.9)
まあまあわかった	66	(34.6)	あまり感じなかった	37	(19.4)
ふつう	64	(33.5)	ふつう	38	(19.9)
あまりわからなかった	22	(11.5)	少し感じた	70	(36.6)
わからなかった	4	(2.1)	とても感じた	27	(14.1)
無回答	1	(0.5)	計	191	(100.0)
計	191	(100.0)			
質問の意味のわかりやすさ		n (%)	評価を受けることが可能な間隔		n (%)
よくわかった	5	(2.6)	3ヶ月間隔	19	(11.0)
まあまあわかった	46	(24.1)	6ヶ月間隔	59	(34.3)
ふつう	57	(29.8)	1年間隔	83	(48.3)
あまりわからなかった	73	(38.2)	3年間隔	15	(8.7)
わからなかった	9	(4.7)	5年間隔	3	(1.7)
無回答	1	(0.5)	その他	11	(6.4)
計	191	(100.0)	無回答	1	(0.6)
			計	172	(100.0)

G-5. アウトカム評価

1. 回答した患者の背景

1) 回答者数

入院中の看護に関するアンケートに対して、回答を得た患者の総数は245名であった。その内訳は、男性141名、女性93名、性別・年齢未回答11名であった。

2) 回答者の特性

年齢区分別の患者数は表21に示す。平均年齢は、男性69.8歳（16歳～91歳）、女性53.7歳（19歳～84歳）であった。男性回答者は50歳代から70歳代で73.8%を占めている。女性では60歳代が最も多くなっているが、30歳代から70歳代までの幅広い年代から回答を得た。

表21年齢区分別の患者数

	男性		女性	
	人	%	人	%
10歳代	1	0.7	1	1.1
20歳代	5	3.5	8	8.6
30歳代	8	5.7	11	11.8
40歳代	14	9.9	15	16.1
50歳代	35	24.8	18	19.4
60歳代	41	29.1	26	28.0
70歳代	28	19.9	11	11.8
80歳代	8	5.7	3	3.2
90歳以上	1	0.7
合計	141	100.0	93	100.0

2. アウトカムの入力結果

1) 得点結果

6領域の得点分布を図8に示す。高得点に傾いた「6. インシデントを防ぐ」を除いて、いずれの領域も適当な分布を示している。

患者対象の項目12項目、家族対象の項目4項目、計16項目すべてに回答が得られたのは97名にとどまっていた。全問回答者97名の得点分布を図9に示す。

64点満点で64点30名（30.9%）、63～60点42名（43.2%）、59～55点20名（20.6%）、50点以下4名（4.1%）で、平均60.9点であった。

6領域の得点レーダーを図10に示す。

「インシデントを防ぐ」96.3%、「内なる力を強める」95%、「患者への接近」、家族の絆を強める」、「直接ケア」93.8%、「場をつくる」領域のみ90%であった。しかし、6領域全体に高得点を示しているといえる。

16項目のそれぞれの平均得点は、表22に示すように、「伝えてほしいことを1人の看護師に言えば、他の看護師にも伝わった」の1項目のみが3.5点であった。その他の項目では3.7点から3.9点であった。特に「6. インシデントを防ぐ」に関する2項目ではいずれも3.9点の高得点であった。

2) 回答率

アウトカムの項目ごとの回答率を表23に示す。回答者数が項目ごとに異なっており、特に家族からの回答が少なくなっていた

（回答率64%～73%）。家族対象の4項目すべてに回答がなかった60名については、患者が入力するときに家族がいなかったと考えられる。その他の部分的な回答が得られたケースでは、家族の中には看護師の存在が意識されないため、答えられなかったことも考えられる。

また、直接ケアの領域で「自分で体が拭けないときに、看護師に気持ちよく身体を拭いてもらっていた」項目で回答した患者が少ないのは（回答率72.2%）、清拭ケアを受けた経験がなかったためと考えられる。そのほかの項目では86.9%を最低におおむね良好な回答率であった。

表22 アウトカム評価 質問項目の得点の平均値・標準偏差と度数分布

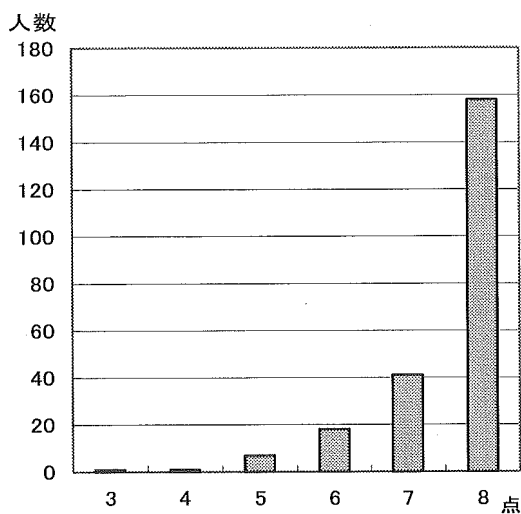
項目	人数	平均	S.D.	最小	最大	度数分布			
						4	3	2	1
患者への接近									
看護師はあなたの希望を確認しましたか？	233	3.7	0.53	1	4	178	49	2	2
看護師は、私の身体の状態をよく知ってくれていると思う。	233	3.8	0.51	1	4	187	39	6	1
合計得点	226	7.5	0.86	3	8				
内なる力を強める									
わからないことは気兼ねなく看護師に質問ができた。	236	3.8	0.40	2	4	202	31	3	0
納得して、治療・看護が受けられた。	235	3.8	0.48	1	4	184	47	3	1
合計得点	230	7.6	0.73	3	8				
家族(重要他者)の絆を強める									
ご家族への看護師の対応に満足できた。	214	3.7	0.54	2	4	159	46	9	0
【家族】面会の際、気兼ねなく入院中のご家族(患者さん)と一緒にいられた。	157	3.8	0.48	2	4	121	33	3	0
【家族】入院中のご家族(患者さん)の役に立ちたいと思っていたことを看護師は認めてくれた	179	3.8	0.47	2	4	144	31	4	0
【家族】あなた自身、患者さんの家族として看護師から大切にされていたと思う。	173	3.7	0.55	2	4	119	48	6	0
合計得点	147	15.0	1.51	9	16				
直接ケア									
自分で身体が拭けないときに、看護師に気持ちよく身体を拭いてもらっていた。	177	3.8	0.52	1	4	139	33	4	1
痛みのあった時の看護師の対応に満足できた。	213	3.8	0.52	1	4	168	40	3	2
看護師から大切にされていたと思う。	236	3.7	0.53	1	4	173	57	5	1
【家族】看護師が入院中のご家族(患者さん)に行っている世話に満足であった。	171	3.8	0.47	2	4	137	30	4	0
合計得点	122	15.0	1.44	8	16				
場をつくる									
伝えて欲しいことを1人の看護師に言えば、他の看護師にも伝わった。	229	3.5	0.66	2	4	134	74	21	0
看護師に言えば、必要なことは医師に伝わっていた。	225	3.7	0.49	2	4	165	56	4	0
合計得点	215	7.2	0.99	4	8				
インシデントを防ぐ									
看護師がいることで、安心して検査や治療が受けられた。	219	3.9	0.36	2	4	193	24	2	0
安心して、看護師の世話が受けられた。	230	3.9	0.39	2	4	199	28	3	0
合計得点	211	7.7	0.63	5	8				
総得点	97	60.9	3.70	47.0	64.0				

表23 項目ごとの回答率

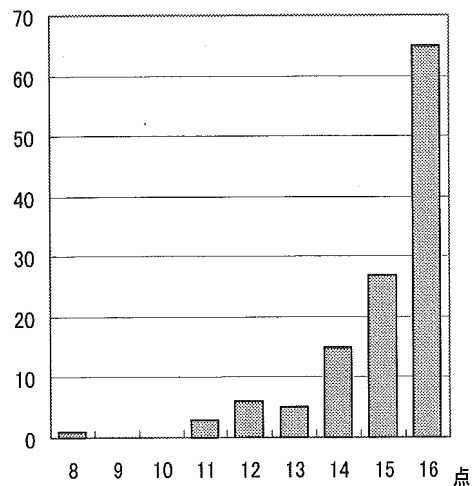
項目	回答	
	人数	割合%
患者への接近		
看護師はあなたの希望を確認しましたか？	233	95.1
看護師は、私の身体の状態をよく知ってくれていると思う。	233	95.1
合計得点	226	92.2
内なる力を強める		
わからないことは気兼ねなく看護師に質問ができた。	236	96.3
納得して、治療・看護が受けられた。	235	95.9
合計得点	230	93.9
家族(重要他者)の絆を強める		
ご家族への看護師の対応に満足できた。	214	87.3
【家族】面会の際、気兼ねなく入院中のご家族(患者さん)と一緒にいられた。	157	64.1
【家族】入院中のご家族(患者さん)の役に立ちたいと思ってしたことを看護師は認めてくれていた	179	73.1
【家族】あなた自身、患者さんの家族として看護師から大切にされていたと思う。	173	70.6
合計得点	147	60.0
直接ケア		
自分で身体が拭けないときに、看護師に気持ちよく身体を拭いてもらっていた。	177	72.2
痛みのあった時の看護師の対応に満足できた。	213	86.9
看護師から大切にされていたと思う。	236	96.3
【家族】看護師が入院中のご家族(患者さん)に行っている世話に満足であった。	171	69.8
合計得点	122	49.8
場をつくる		
伝えて欲しいことを1人の看護師に言えば、他の看護師にも伝わった。	229	93.5
看護師に言えば、必要なことは医師に伝わっていた。	225	91.8
合計得点	215	87.8
インシデントを防ぐ		
看護師がいることで、安心して検査や治療が受けられた。	219	89.4
安心して、看護師の世話が受けられた。	230	93.9
合計得点	211	86.1
総得点	97	39.6

図8 アウトカム6領域の得点分布

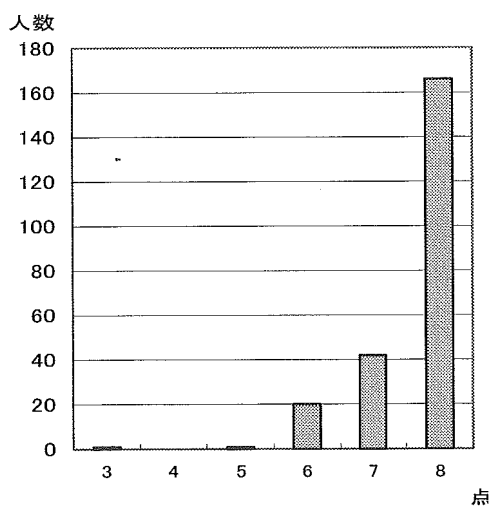
1. 患者への接近



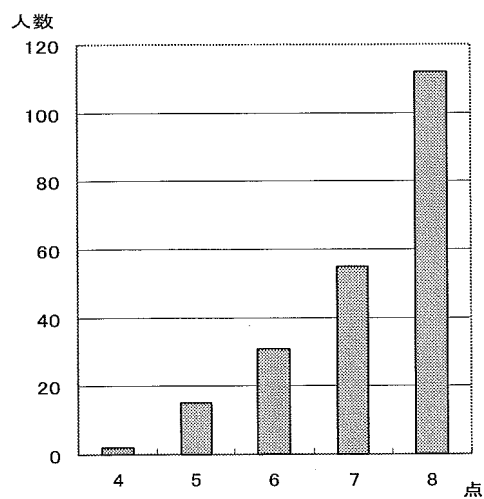
4. 直接ケア



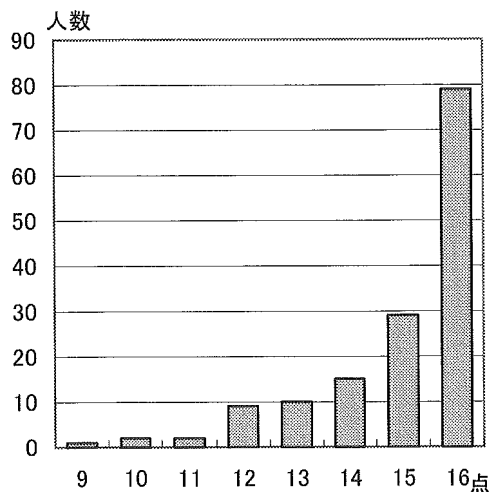
2. 内なる力を強める



5. 場を作る



3. 家族の絆を強める



6. インシデントを防ぐ

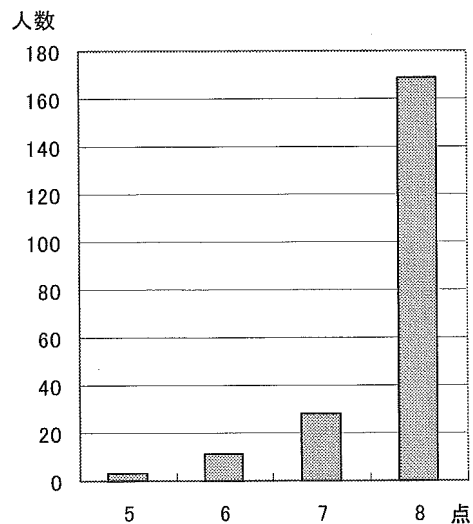


図9 アウトカム 総合点数の度数分布

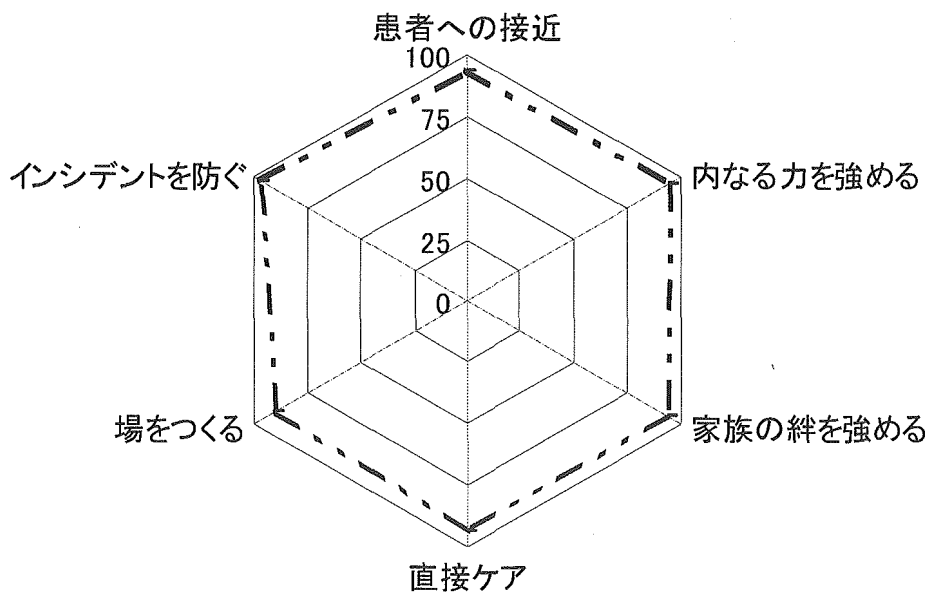
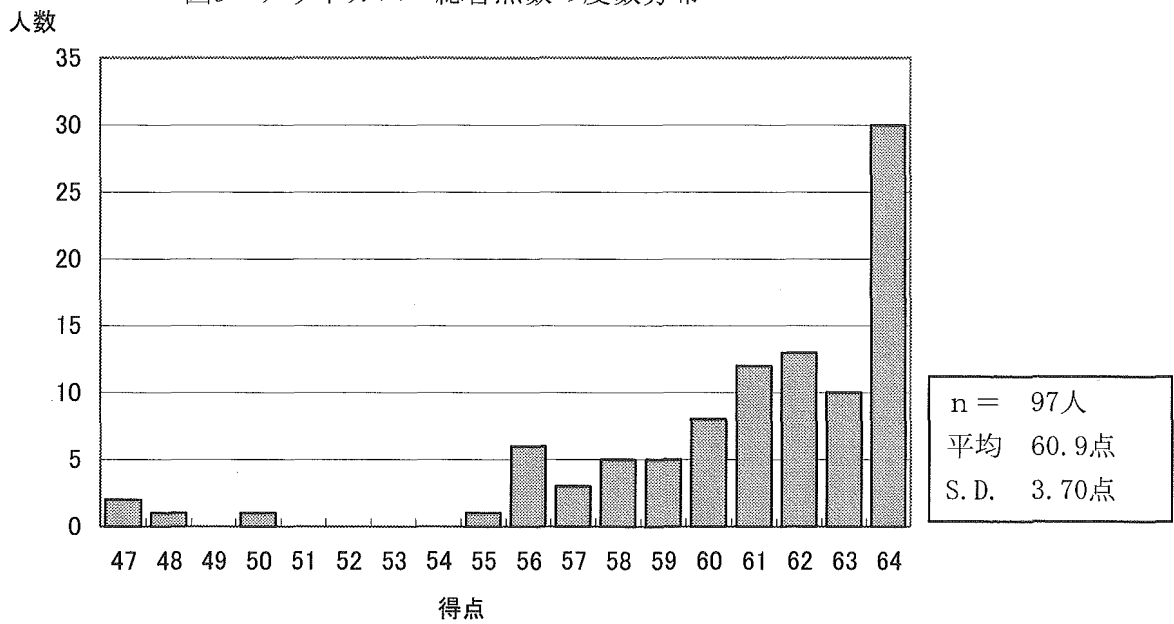


図10 アウトカム得点レーダーチャート

3. 転倒、転落、褥創の発生件数

転倒・転落・褥創の1000床あたり発生件数の結果を表24ならびに図11に示す。今回は1ヶ月間の調査であったため、これらの発生件数が0件であるところもみられた。

転倒に関しては45.2% (19/42)、転落に関しては64.3% (27/42)、褥創に関しては61.4% (26/42) の病棟で発生件数は0件であり、図に示すように左側に偏った分布となった。転倒件数の平均は 1.4 ± 2.1 件、転落件数の平均は 0.5 ± 0.7 件、褥創件数の平均は 0.4 ± 0.4 件であった。これらは、米国での発生件数より低いと考えられる。今後、このようなシステムによって、多量のデータが蓄積されていくことにより、インシデントの発生件数を正確に把握できるとともに、インシデントを防ぐ、的確な看護の方略が明らかになっていくことが期待される。

表24変数相互の相関

		転倒	転落	
転落	相関係数	0.21		
	N	42		
褥創	相関係数	0.34 *	0.31 *	
	N	42	42	

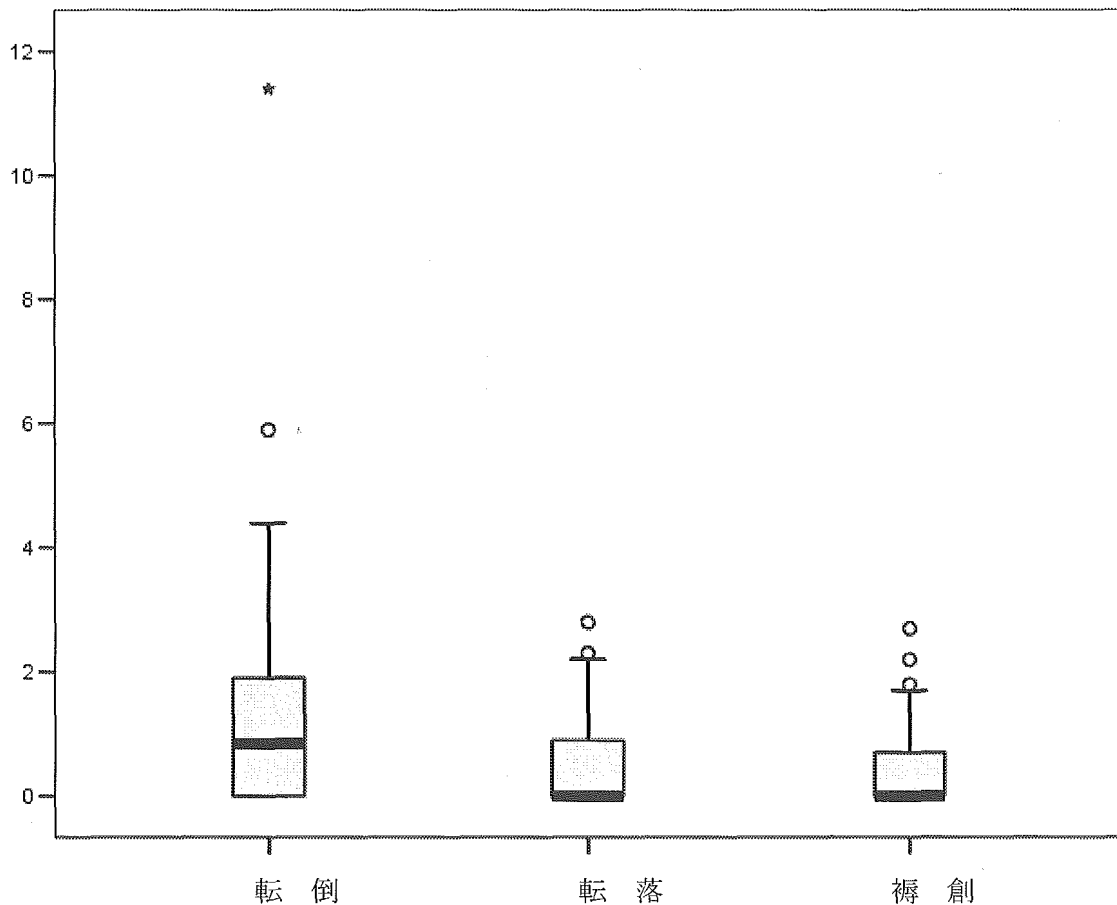
Spearman相関係数 * $p < 0.05$

表25 1000床あたりの転倒・転落・褥創の発生件数

	N	平均値	S.D.	最小値	最大値	歪度	尖度
転倒	42	1.4	2.1	0	11.4	2.9	11.7
転落	42	0.5	0.7	0	2.8	1.6	2.0
褥創	42	0.4	0.7	0	2.7	1.7	2.3

図11 転倒、転落、褥創の発生頻度の分布（箱ひげ図）

発生件数



箱の上辺が第3四分位点、下辺が第1四分位点、箱の中の線は中央値を示す。

G-6. 構造・過程・アウトカム評価の総合検討

1. 構造、過程、アウトカム相互の関係

1) 構造と過程得点の関連性

構造6領域得点と過程6領域得点の相関を表26に示す。正の関連がみられたものは、過程の「インシデントを防ぐ」という項目と、構造の「家族の絆を強める」 $r=0.39$ ($p<0.05$)、「直接ケア」 $r=0.35$ ($p<0.05$)、「場をつくる」 $r=0.46$ ($p<0.001$)であった。すなわち、家族の絆を強める、直接ケアを支援する、場をつくるシステムをもっている病棟では、看護師は「インシデントを防ぐ」という過程を積極的に行うことができている。具体的には、看護師は看護ケアにおいて不確かなことは確認する、看護師はリスクと可能性を見極めながら患者の危険なサインがでたらすぐにストップできるという考えをもちながら看護ケアをすすめる、看護師は看護ケアを基準や手順どおりにおこなっているという行為をより確実におこなっていた。

負の関連がみられたものは、構造の「インシデントを防ぐ」という領域と過程の「内なる力を強める」 $r=0.33$ ($p<0.05$)領域であった。これは、病棟のインシデントを防ぐシステムが整っているほど、看護師が「内なる力を強める」行為をしていなかったことを意味する。すなわち、褥創予防のためのアセスメントシートや備品、院内感染防止ガイドライン、インシデントの発生対応システムがあるところでは、看護師は患者の状況理解をすすめる、予測や見通

しを高めるといったケアを十分行っていないことになる。これは理論的には説明がつきにくいことであるので、今回偶然の結果であるのか、何か必然性をもっているのか、今後データ数を増やして検討する必要がある。

2) 構造と患者満足度得点

構造総合点と患者満足度総合点の間には -0.36 という負の関連性がみられた ($p<0.05$)。また、いくつかの項目間でマイナスの相関がみられた。特に構造「家族の絆を強める」「直接ケア」と患者満足度総得点とは、それぞれ相関係数が -0.47 、 -0.41 という負の相関がみられた。これは、構造システムが整った病院に入院する、例えば疾患が重篤であるといった患者の特徴が影響しているのか、構造システムが整った病院のなんらかの要因が影響しているのか今後の検討が必要である。

3) 過程と患者満足度得点

過程総合点と患者満足度総合点の間には強い関連性はみられなかった。しかし、過程「内なる力を強める」と患者満足度総合「患者への接近」、「家族の絆を強める」総合点のあいだには、 $0.36\sim0.36$ という関連性がみられた ($p<0.05$)。このことは患者の「内なる力を強める」ように看護師が患者の状況や今後の見通しなどを患者によく説明している病棟では、患者の満足度も高い傾向があることが示唆され、自分のことをわかってくれている、家族に配慮をしてくれているという印象をあたえてい

ることが示唆された。一方、過程の「インシデントを防ぐ」と患者満足度「直接ケア」の間には-0.34 ($P < 0.05$)であったが負の相関がみられた。このことは、リスクを見極めながら看護をすすめていく、例えばリハビリ期などであると、患者さんは十分に直接ケアをしてもらえていないと感じることがあるのかもしれない。いずれにせよ、今回の患者満足度調査は、Webを使ったことにより、入力できる患者層に偏りがあったこと、コンピュータ入力に不慣れな方がいたためか、欠損値が多かったことなど今後の課題を提示しており、今回みられた項目間の関連性の要因に関しては今後詳細な検討を必要とする。

4) 転倒・転落・褥創と構造、過程、患者満足度得点

有意な関連がみられたのは、構造の「家族の絆を強める」と転倒の頻度で、Spearman相関係数は0.45 ($p < 0.01$)であった。家族の絆を強めるように配慮された病棟では、家族が患者の側に長時間付き添うことができる可能性が考えられ、転倒の頻度が下がる可能性が示唆された。一方、有意な関連ではなかったものの患者満足度の項目と転倒・転落・褥創との相関係数は負の値を示すことが多く、仮説と一致しない点もみられている。これらの点に関しても、今後の詳細な検討が必要である。

表26 構造6領域得点と過程6領域得点の相関

1) 構造と過程得点の関連性

構造		過程						総点
		1	2	3	4	5	6	
1.患者への接近	相関係数	-0.07	-0.22	-0.21	0.02	-0.09	0.24	-0.04
	N	39	41	41	38	39	38	41
2.内なる力を強める	相関係数	-0.13	-0.01	-0.16	-0.02	-0.03	0.14	0.06
	N	36	38	38	35	36	35	38
3.家族の絆を強める	相関係数	-0.18	-0.12	-0.18	0.05	-0.11	0.39 *	0.04
	N	37	39	39	36	37	36	39
4.直接ケア	相関係数	0.14	0.10	0.07	0.10	0.20	0.35 *	0.19
	N	34	36	36	33	34	33	36
5.場をつくる	相関係数	0.20	0.10	0.11	0.19	0.13	0.46 **	0.24
	N	36	38	38	35	36	35	38
6.インシデントを防ぐ	相関係数	-0.13	-0.33 *	-0.06	0.06	-0.18	0.19	-0.14
	N	38	40	40	37	38	37	40
総点	相関係数	-0.16	-0.17	-0.10	-0.05	-0.08	0.25	0.01
	N	42	43	43	40	41	41	44

Spearman相関係数 * p<0.05, **p<0.01

2) 構造と患者満足度得点

患者満足度		構造						総点
		1	2	3	4	5	6	
1.患者への接近	相関係数	0.11	0.08	0.11	-0.11	0.05	0.20	-0.07
	N	39	36	37	34	36	38	41
2.内なる力を強める	相関係数	0.11	0.19	-0.04	0.01	-0.05	-0.22	0.001
	N	39	36	37	34	36	38	41
3.家族の絆を強める	相関係数	-0.17	-0.33	-0.29	-0.19	-0.08	-0.13	-0.47 **
	N	38	35	35	33	34	37	38
4.直接ケア	相関係数	-0.22	-0.18	-0.27	-0.34	-0.22	0.11	-0.41 *
	N	38	35	35	33	34	37	38
5.場をつくる	相関係数	0.00	-0.22	-0.16	-0.09	-0.04	0.18	-0.14
						5		

	N	39	36	37	34	36	38	41
6.インシデントを防ぐ	相関係数	-0.15	-0.27	-0.21	-0.33	-0.12	-0.07	-0.26
	N	39	36	37	34	36	38	40
総点	相関係数	-0.07 2	-0.13	-0.24	-0.20	-0.09	-0.08	-0.36 *
	N	38	35	35	33	34	37	31

Spearman相関係数 * p<0.05, **p<0.01

3) 過程と患者満足度

患者満足度		過程						総点
		1	2	3	4	5	6	
1.患者への接近	相関係数	0.16	0.35	0.10	0.19	0.01	-0.01	0.31
	N	40	41	41	39	40	38	41
2.内なる力を強める	相関係数	0.10	0.27	0.11	-0.11	0.16	-0.03	0.20
	N	40	41	41	39	40	38	41
3.家族の絆を強める	相関係数	0.09	0.36 *	-0.05	0.05	0.15	-0.21	0.11
	N	37	38	38	36	37	35	38
4.直接ケア	相関係数	-0.01	0.03	-0.07	-0.28	-0.07	-0.34	* -0.07
	N	37	38	38	36	37	35	38
5.場をつくる	相関係数	-0.06	0.09	-0.04	-0.15	-0.14	-0.29	-0.10
	N	40	41	41	39	40	38	41
6.インシデントを防ぐ	相関係数	-0.06	0.25	0.01	-0.17	0.13	-0.27	0.02
	N	39	40	40	38	39	37	40
総点	相関係数	0.04	0.33 *	-0.03	-0.11	0.05	-0.32	0.10
	N	37	38	38	36	37	35	35

Spearman相関係数 * p<0.05, **p<0.01

4) 転落・転倒・褥創と構造、過程、患者満足度得点

		転倒	転落	褥創
<構造>				
1.患者への接近	相関係数	0.02	0.02	-0.10
	N	40	40	40
2.内なる力を強める	相関係数	0.18	-0.13	0.01
	N	37	37	37